

ゆき@共用品という 思想(*^ ^*)

大熊 由紀子

ある日東京に生まれ、01年までの17年間、朝日新聞の福祉、医療、科学、技術分野の社説を担当。著書に『物語・介護保険』（岩波書店）『恋するようにボランティアを〜優しき挑戦者たち』『寝たきり老人のいる国いない国』『福祉が変わる医療が変わる』（ふどう社）『患者の声を医療に生かす』（医学書院）など。国際医療福祉大学大学院教授（医療福祉ジャーナリズム）。福祉と医療、現場と政策をつなぐ「えにし」ネット志の縁結び係。http://www.yuki-enishi.com/の「優しき挑戦者の部屋」などでバックナンバー読めます。

第92回



① 共用品のごく一部ですが

◆さりげなさが身上◆

ボランティア精神の塊のような2人が書いた『共用品の思想』という不思議な名前の本が評判です。

「共用品」は、日本生まれの思想です。海外でアクセシブルデザインと呼ばれているものに似ています。

ちよつとした「気配りコンセプト」や設計で、ハンデイを負った人が安心して使える。それだけでなく、だれもが使いやすい「モノ」や「サービス」であることが特徴です。あからさまな「障害者用」「高齢者用」に見えない、さりげなさが身上です。①は、そのような考え方でつくられた商品のごく一部です。

◆発端は、共遊玩具◆

筆者のひとり、星川安之さんは、もともと玩具メーカーの「トミー工業」（現・タカラトミー）で、「共遊玩具」の開発にたずさわっていました。共遊玩具というのは、目が見えなかったり、耳が聴こえなかったりする子どもたちが、目にも耳にも不自由のない友だちと一緒に遊べるおもちゃです。②は、目が見えなくても遊べるマジックテープの付いた積み木を試しているところです。

この共遊玩具の動きは、バンダイ、タカラなどの他のメーカーに、さらに海外にも

広がりました。③のマークが世界共通のものになってゆきました。

盲導犬マークは、目が見えない子も一緒に遊べること、ウサギマークは、耳の聴こえない子も使えることを表しています。

◆楽しんで創造する◆

このような考え方に共鳴した人々が出会って1991年に誕生したのが、E&Cプロジェクトでした。Eはエンジョイメント、Cはクリエイションの頭文字です。

メンバーの職種は、調査、企画、デザイン、設計、サービス、教育、行政、メディアと様々。そして、障害をもつ当事者。年齢は20代から70代。男女半々。参加資格は「個人」ですが、集まった人々が触発しあう中から次々と製品やサービスが生まれました。ソニーは、指先の力が弱くても操作しやすく、耳が聞こえにくい人にも便利なラジカセを開発しました。

松下電器は、役員自ら高齢者の疑似体験をし、商品開発の重点に「加齢化配慮」を加えました。

TOTOが高齢者や障害者のために改良したトイレは、「一般住宅用として急速に普及してゆきました。

・からだが不自由な人もそうでない人もともに使いやすい

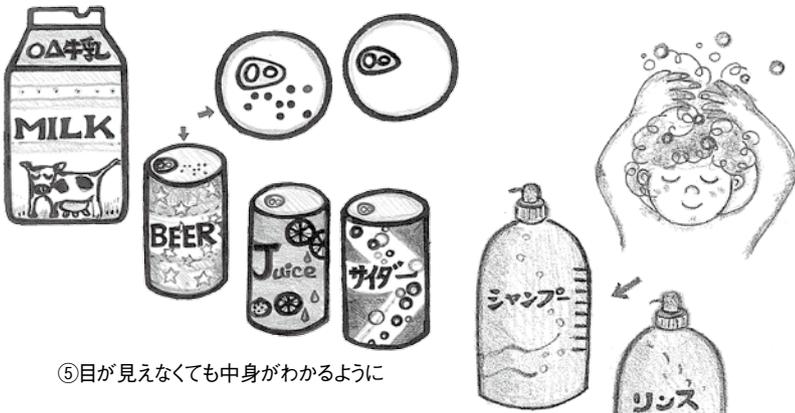
・専用ではない

・どこでも、いつでも手に入れたり、利用し

②目の見えない子どもたちも一緒に遊べる玩具づくりが始まりました

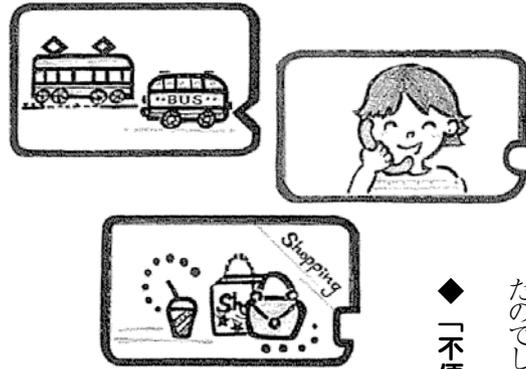


③玩具につけられたウサギと盲導犬のマーク



⑤目が見えなくても中身がわかるように

④シャンプーとリンスが触ればわかるギザギザ



⑥プリペイドカードを区別できるように

たりできる

・一般的な製品、サービスと比べて特に高くない

・継続的に製造・販売・提供されている

このような共用品に、企業も関心をもち始めたのです。そして、この考え方を広め製品やサービスとして定着するように、星川さんが専務理事になって99年、財団法人・共用品推進機構が誕生しました。

これを行政官としてバックアップしたのが、後に経済産業省の審議官になった後藤芳一さん。もう一人の筆者です。いまは、経産省から出向して大阪大学工学研究科教授、ご自身は、〃大阪大学営業部長〃と名乗っています。

この後藤さんと初めて会ったのは20余年前の休日のこと、官僚にはまったく見えないセーター姿でE&Cプロジェクトに参加していたのでした。

◆「不便さ調査」がきっかけ◆

著書から共用品の実例をさらにご紹介してみます。

④は、シャンプーの側面のようなギザギザ。このギザギザがあることで、目の不自由な人はリンスとシャンプーの違いが分かります。でも、目の見える人も髪を洗うときは目をつぶりま

す。この配慮は、目が見えるひとにとっても便利です。

ただし、もしも、メーカーごとに、ギザギザをリンスにつけたり、シャンプーにつけたりしたら、消費者は困惑します。そこで、企業全体で共通のものにする呼びかけがされました。

⑤は、中味が何かかわかる牛乳パックの切欠きと、上面に「おさけ」と点字を打つてあるビール缶です。

⑥は96に制定されたプリペイドカード一般規則です。93にE&Cプロジェクトが報告した目の不自由な人300人への「日常生活での不便さ調査」が生かされ、電車用、電話用、買い物用が指先で探れるようになりました。

イラストは、星川さんのパートナーで最大の理解者、のぶ子さんによるものです。

◆ボランティアと共通する5つの要素◆

共用品・共用サービスを広めていくために、試行錯誤してたどりついた5つの要素が本中で紹介されています。

- ① 気付く
- ② 動く
- ③ かたちにする
- ④ 共有する
- ⑤ 続ける

ボランティア精神を広めるときにも、参考になるような気がするのですが。